

気づく、想像する

セクシュアル・マイノリティ (性的少数者) の割合は、様々な調査によると人口の約3~10%と考えられています。当然、学校や職場、家族や友人などの中で関わり合っているはずですが、なかなか存在が見えにくいのが現状です。周りにいないのではなく、気づいていないだけ、あるいはあなたが気づこうとしていないのかもしれません。



多くのセクシュアル・マイノリティが、誰にも相談できずに悩み、苦しんでいます。それは、周囲の無知や無理解による差別や偏見を恐れて、生活しているからではないでしょうか。

もしかしたら、自分の気づかないうちに、誰かを深く傷つけているのかもしれません。

自分の「当たり前」が無意識に誰かを傷つけているかも。そんな想像力が大切です

自分を語れる、自分らしく過ごせる社会へ

当事者であることを言わない人・言えない人、子どもの頃から戸惑いを抱え、当事者と悟られないよう本当の自分を隠し続けている人は、実はたくさんいます。

男女の区別や異性愛を当たり前のこととし、それ以外の生き方を嫌悪したり排除したりするような社会では、LGBTなどセクシュアル・マイノリティへの偏見や差別はなくなりません。

また、カミングアウトするかどうかや、いつ、誰に、どのように伝えるかは、本人が決めることであり、周囲の人が、カミングアウトを強要するようなことは、決してあってはなりません。



くるめしないちゅうがくねんせいさくひん ねんどじんけんさくひんしゅう 久留米市内 中学2年生の作品 (2021年度人権作品集より)

『一番言いたくないことは、一番わかって欲しいこと』